

がん診療レジデントマニュアル

第4版



編：国立がんセンター内科
レジデント

B6変型 頁420 2007年
定価3,990円(本体3,800円+税5%)
[ISBN 978-4-260-00310-0]医学書院刊

臨床腫瘍学に関する情報も湯水のごとく存在しており、authorizeされたguidelineやrecommendationなどを含めてほとんどの情報をonlineで入手することが可能である。しかし、実地医療の現場においては、それぞれを別個に検索し入手しているのでは、診療のスピードについていけない。やはり、基本的な事項については、ある程度まとまったマニュアルが必要である。しかも、実臨床での利用が容易であるためには、ポケット版という携帯性も重要である。そこにも執筆者の配慮が感じられるが、本書はタイトルにも示されているように、対象読者はレジデントであるが、シニアレジデントが中心になって執筆しているのであるから、それももったもなことである。

このようなガイドライン的なものは、2～3年ごとの定期的な改訂が求められる。本書は、第4版であり、10年間に4版を重ねているというこ

とは、まさに、それを実践しているといっても過言ではない。

Level of evidenceの概念を紹介するとともに、本書の内容にもevidenceの評価を行うという斬新な手法を導入し、また、コミュニケーションスキルや、臨床試験のプラン、EBMの基本的事項など、従来にない幅広い内容となっている。特に、支持療法関連、感染症対策、消化器症状に対するアプローチ、がん性疼痛の治療については、evidenceやguidelineに基づいて記載されており、実践できわめて役立つであろう。さらに、本邦未承認の最新の分子標的薬も紹介するなど臨床の最先端の事項も記載されている。

どうやら日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医の認定試験受験生の必読書になっているようであるが、レジデントのみならずスタッフにも勧めたいポータブルな教科書であり、専門疾患以外の診療にも有用であろう。

背表紙の裏にまで、よく使われる有害事象の共通用語基準が記載されており、まさに、膨大な資料を限られたスペースに簡潔に凝縮している、臨床腫瘍学を志す者にとって、必読、必携の一冊であると思う。

今後も改訂がすすめられると思うが、PDAに取り込んで使えるようなnew versionも、ぜひ期待したい。